



## 不安に打ちかつ

傘木澄男神父

私達は毎日を平安の内に過ごしたいと願っていますが、どうしてもその反対の不安に捕われてしまいます。健康、退職後の生活、子供のこと、家族の無事安全など、不安の種は尽きず、あらゆる人を襲います。不安は「人生の大切な価値、自分の存在そのものが脅かされている」と感じて平静を失う自然な反応です。でも脅かすものの正体は漠として掴み所がありません。この点不安は恐れと違います。恐れは対象も原因もはっきりしているので何とか対応できますが、不安は原因が不明ですから厄介です。いわゆる霊的な不安にさいなまれる人もいます。「自分は神に受け入れられていない。神のお心に背いている」と心配して「罰を受けるのではないか」という不安に襲われ、自然な祈りや信心生活もできなくなります。こうした霊的不安は実は神への思いより自分へのこだわりから生ずるものです。この様な時は「神の恵みに誠実に応えようとしている限り神をお喜ばせすることはできるのだ」と自分に言い聞かせて、こうした霊的不安に打ちかかって行かねばなりません。

不安や心配事を完全に払い除けることはできなくても、それを神との愛と信頼の関係の中できちんと位置づけることはできることで、とても大切なことです。その際自分一人で解決しなければいけないという態度から、神が私と共にいて下さるといふ信頼へと切り換えていくことが必要です。そして困っている人達のためのボランティアや愛徳のわざも、不安からの解放を得られる良い方法でしょう。

「思い悩んだからといって、寿命を僅かでも延ばすことができようか。こんなごく小さな事さえできないのに、なぜ他の事まで思い悩むのか」(ルカ 12:25)。不安に襲われる時は「過去に何かの困難に出会った時いかに良くそれに対応したか。色々恐れていたが結局はそうならなかったではないか」ということを思い起こすことが大切です。神が共におられる以上物事は今より悪くなることはなく必ず良くなる、というのが私達の経験するところです。

言い古されたことですが、要するに自分を悩ます全てのことを神の御手にお委ねすることです。そして今の時をいかに心を込めて生きるかを考えて、実行することです。「観想の折りの秘訣は何物にも心を付着させないこと、何物にも捕われない心を育てることだ」と言われますが、日常生活のためにも、私達はその様な訓練を心掛けて、一切の不安に打ちかかって、主の平安に包まれた生活ができるように努めて行きたいものです。(以上)

## 2017年1月度住吉教会小教区評議会議事録

1. 日時:2017年1月15日(日) 11:10~13:54、出席者13名  
場所:住吉教会1階第2会議室

2. 始めの祈り

ユスト高山右近列福式までの共同祈願(高山右近列福推進委員会)

3. ブラッドリー神父メッセージ

☆前田万葉大司教メッセージ(カトリック時報1月号参照)

- ・右近の生き方に倣(なら)う⇒最後まで信仰を守る生き方を学んでいく。⇒「右近と歩む祈りの旅ー8日間の黙想ー」(日本カトリック司教協議会 列聖推進委員会)。
- ・列福式(2月7日):日本のカトリック教会にとって大きな恵み
- ・「ユスト高山右近列福式前夜の祈り」司祭による司式、信徒による司式
- ・私たちが若い世代にこの信仰をどう伝えていくか。列福式の恵みをどう分かち合っていくか。
- ・川邨神父(列福推進委員長)を中心とした大きな運動は、列福式で終わるものではない。
- ・2017年4月から新たなスタートであり、いつくしみの特別聖年の恵みをこの1年に活かす。
- ・「右近の生き方を学ぶ会」をつくり、分かち合う。ワークショップ。祭司職と関連⇒学び、伝える。

☆いつくしみの特別聖年振り返りの分かち合い

- ・神戸地区平和旬間行事の準備(和田神父講演会を聴く、岸和田地区大会に出席し、ユース9の公演を見て、打ち合わせ。神戸地区社会活動委員会での具体的話し合い、神戸地区平和旬間行事でのユース9の公演、分かち合い。平和祈願ミサ。)
- ・教皇 身体的な事前のわざ7つ、精神的な事前のわざ7つ。煩わしい人生を辛抱強く耐え忍ぶ。
- ・反省の日々
- ・青年と司教の集まり。青年の中で教会から離れる人と教会で活動する人の温度差。自分たちの活動を振り返る。
- ・なるべく信徒がひとつになれるよう、普段来られない方へのハガキを出すこと。クリスマスに久しぶりにハガキを見て来られた。
- ・子ども食堂、シリアのアレppoの状況等考える。神様のいつくしみの心を運べるように。いつくしみの冊子の配布や、すみよし誌2016年イースター号で特集を組んだ。
- ・営繕チーム:皆さんが教会に来られた時に気持ち良く過ごせるように、見えないところへの配慮。ルルド排水の修復、源平桃の枯死からの回復(ひこばえを生かす)。水道管凍結防止措置。
- ・人をいつくしんでいく接し方、いつくしみの門をくぐり、免償を受け、兄弟姉妹に捧げた。
- ・カトリック幼稚園としての歩み、司祭・修道者のアイデンティティが伝わってきた  
絵本 子供の世界、園としてしっかりと働きかけていく。
- ・教会学校の継続、司祭へのお願い、連絡を密にして、リーダー会でみんなで話し合い。  
子供たちとロザリオの祈り、未信者の子供たちの多い教会学校で、神様の愛が心に残るように。
- ・典礼として、いつくしみの特別聖年の祈り、公式賛歌を繰り返す祈り、歌い、伝えること。
- ・養成チームとして、深くいろいろと考えた。住吉教会の中での養成が重要。

- ・大きなテーマ【いつくしみ深く、御父のように】 これからもこのように歩んで行きたい。
- ・レジオ・マリエを中心とした病者訪問、高齢者訪問、帰天時に遺族の方の身になって安心して葬儀ミサが行えるように誠心誠意のやりとり、連絡を行っていく。
- ・教皇勅書を何回も読み返した。県外で帰天された方の葬儀に行った。一人の信徒として病者訪問。

#### 4 星の園幼稚園連絡・協議事項

3月16日(木) 10:00 星の園幼稚園卒園式、感謝の祈り(聖堂)

共同祈願: 教員、保護者、園児、教会役員

4月12日(水) 10:00 星の園幼稚園始園式

4月13日(木) 10:00 星の園幼稚園入園式

#### 5 議事

##### ア 日程確認

年間行事予定(案)承認。4月の小教区総会資料として配布。

##### イ 審議事項

- (1) 四旬節黙想会について(3月5日四旬節第一主日はブラッドリー神父は鈴蘭台教会黙想会を指導されるため、不在。中ブロック 大久保 武神父が住吉教会ミサ司式、黙想指導)
- (2) 聖体奉仕者(候補) 選任について N氏(評議会推薦)(2016年3月承認済)  
聖体授与を伴う病者訪問奉仕者研修会修了、任命書交付日について(神戸地区養成委員長から地区長経由で大司教修了証交付の申請は1月15日の補講終了後、2月予定)  
任命書を担当司祭から交付頂き、4月から聖体奉仕者として活動開始が承認された。
- (3) 2016年仮決算(案)、2017年度予算(案)(チーム活動計画案含む)  
評議会決定を行い、司祭承認。
- (4) 住吉教会年間行事予定(案):評議会決定を行い、司祭承認。
- (5) 住吉教会選挙細則(公示1)改正について:第4 新設が承認された。  
評議会役員(議長団)選挙日程について、3/5 選挙公示、3/11 11:00 立候補〆切  
3/19 評議員投開票。なお、立候補者無き場合、上記第4の規定適用。

(選挙細則 公示様式1 第4)評議会役員立候補者届出が無かった場合、小教区運営に支障をきたさないよう、上記役員は住吉教会信徒である評議員の中からの互選とします。なお、本人承諾の上、評議員以外の住吉教会信徒からの選任も可能とします。

## ウ 検討・報告事項

- ① パーティ費用:会議費 復活祭と降誕祭の予算を大きく、被昇天はすいかパーティとし、新年会は、以前のように会費制も検討。バーベキューの会費底を突いた。メリハリをつけた支出方法を。
- ② クリスマスポスターについて  
降誕祭夜半のミサ(280人)、日中のミサ(200人)の合計480名来られた。近年久しぶりである。A4版ポスター掲示を住之江地区自治会に依頼し、掲示。教会壁面大ポスターも効果あり。継続することとなった。なお、プレゼピオ(馬小屋)をスマホで撮影する方が多く見られた。
- ③ サムエルナイト 4月29日(土)～30日(日)、住吉教会お泊まり会。
- ④ アジア・ユースデー(インドネシア)7月30日～8月6日  
西ブロック3教会からワールド・ユースデー(ポーランド・クラコフ)に青年を派遣したように、住吉教会からの派遣を実現したい。(日本全体で50人参加)、参加費+交通費。  
参加者への宿題:これからの10年の活動のスタート。今後の抱負。
- ⑤ 成人式参加の3人の若者のフォローアップ:遠方なので、LINE、メール等で青年の活動案内送信
- ⑥ ミサお知らせの印刷要望:以前の主任司祭時、信徒の担当者が毎週土曜(年中無休)週報印刷を10年間続けたが、負担が大きく後任者がおらず、月報となった経緯がある。当番制で印刷する方法等、継続検討となった。「以前は中央協議会、教区、地区、ブロック、小教区で活動するといった多面的な教会活動はなかった。指示や行事が多い中でまだ仕事が増えるのか」という声もある。
- ⑦ 奉納時のミサ・ワインと水の器が載ったトレーが転ばないように、支えるお盆購入決定、承認。
- ⑧ 復活徹夜祭(4月15日)(バイリンガルミサ)で、スペイン語圏の方で受洗希望者の有無について確認すること⇒ラモス神父様に報告すること。

## 6、終わりの祈り

☆次回評議会 2月19日(日)11:00から

議題1 日本カトリック司教団メッセージ「性虐待被害者のための祈りと 償いの日」の設定にあたって:2017年3月17日(金)  
(大阪カトリック時報1月号 2017年度大阪教区年間予定に掲載)

議題2:チーム代表改選について及び宣教チーム、社会活動チームへの人的支援について

議題3:その他協議事項

## カトリック住吉教会の守護聖人「聖パウロ三木」

カトリック住吉教会は日本にキリスト教がもたらされて以来、最初の殉教者の一人となられた聖パウロ三木を守護の聖人としています。

教会創立時（1935年）、初代主任司祭に任命されたアルフレッド・メルシェ神父は、新設された教会を日本の聖人に捧げたいと考え、「聖パウロ三木」を守護の聖人とされ、当時のカスタニエ司教も大変喜ばれ賛成されたそうです。

理由としてはおそらく「摂津の国」のお生まれであり（阿波徳島、山城の説も有）また、今から400年以上前、禁教令で捕えられた聖パウロ三木と同志殉教者が堺から長崎西坂の刑場に引き立てられて行く途中、1597年1月10日に旧西国街道といわれる当教会の前辺りを通られた事によります。

聖パウロ三木は1564年（永禄七年）に武士の家に生まれ、1568年（永禄十一年）幼少時に受洗、パウロという洗礼名を頂かれました。安土城下にセミナリオ（神学校）が開設されると一期生として学び、広く学問を収めました。22才でイエズス会に入会。イルマン（＝修道士）としての彼は、研鑽と信仰を深め、その信仰と人柄、優れた説教の才能により多くの人々をキリストへの信仰に導きました。

数か月後には司祭になる事が決まっていた時、秀吉の禁教令により捕えられ、同志と共に長崎の西坂まで引き立てられ、1597年2月5日処刑されました。日本での二十六人の殉教は、すぐにローマに伝えられその信仰の強さはローマで驚きと崇敬の対象となりました。イエズス会やフランシスコ会等で列福運動も始められ、1627年9月14・15日 教皇ウルバノ8世により列福されました。僅か30年後に「二十六人が列福」されている事をみても当時の反響の大きさがわかります。

殉教より265年後の1862年6月8日、二十六人は教皇ピオ9世により列聖され、「日本二十六聖人」と呼ばれています。また、聖パウロ三木の確固たる信仰とその卓越した指導力により「聖パウロ三木と同志殉教者」ともよばれています。

（住吉教会ホームページより抜粋）